

文は信なり

日本クリスチャン・ペンクラブ (略称 JCP) 発行・責任者 池田勇人
 事務局 〒131-0043 東京都墨田区立花 4-6-13 三浦喜代子方
 TEL&FAX 03-3616-8621 郵便振替 00170-0-161838
 ホームページアドレス・<http://jcp.daa.jp>

夏期学校歓迎特集号

夏期学校への招待

関西ブロック・理事 久保田 暁一

日本クリスチャン・ペンクラブ主催の第四十六回夏期学校研修会が、関西ブロック担当で、七月二十七日から二十八日にかけて開催されることになりました。会場は近江八幡市「ウェルサンピア滋賀」(滋賀県厚生年金休暇センター)であり、研修主題は「志(こころざし)に生きる」であり、それを学びと交流の中で深めていくことを目指します。

「志(こころざし)」と言うと、私は、一八七六年(明治九)に米国から来日して札幌農学校(現・北海道大学)で教鞭を執ったウィリアム・スミス・クラーク博士が、学生たちに残した言葉を思い浮かべます。

「Boys be ambitious!」(少年よ、大志を抱け！)

この場合「大志」とは、世俗の地位や富や名誉を得ることを目指すのではなく、神の国実現のために、社会で活躍する者として生きる志を持つことを意味しています。

クラーク博士の偉大な感化を受けた札幌農学校からは、新渡戸稲造、内村鑑三ほか、神の国実現の「大志」を抱いて活躍したキリスト者が輩出しました。クラーク博士は、在任僅か一年

足らずで札幌から去りましたが、北海道大学には博士の胸像が立てられ、彼の功績が今も讃えられています。

私たちも、クリスチャンとしての使命感、大いなる生きる目標と希望を、お互いの交流と学びを通して確かめ、深めていきたいものです。特にクリスチャン・ペンクラブとしては、書く業を通して力強く福音を証しする力量と志を身につけたいものであります。

会場のある近江八幡市は、山紫水明に恵まれた水郷の街で散策や舟による水郷巡りも楽しめます。ウィリアム・メレル・ヴォーリズ師が百年前に起こし、今日でも引き継がれている近江兄弟社の事業や足跡をはじめ、近江商人発祥地としての街並み、歴史などを肌で感じ取れる街であり、ぜひ多数の方が参加し、研修会を盛り上げてください。夏期学校の講師陣も充実しています。

振り返りますと、二〇〇一年七月、近江湖西の湖畔で開催された第四十三回夏期学校には、百名に近い方々のご参加がありました。今年度は近江湖西の対岸に位置する近江八幡の地であり、湖西の時を上回ること参加を期待しております。二日間の短い集いですが、楽しく充実した交流と学びを展開しましょう。

関西ブロックとしては、そのために鋭意準備を進め、皆さんのご来場をお待ちしています。

主題メッセージ 『志に生きる』

—— 志の霊的な側面 ——
理事長 池田勇人

志とは、心の向かうところ、目標とするところをいう。「さす」は「刺す」という直線的な方向づけの意を持つ。故に「志に生きる」とは、自分の使命を明確にし、その実現のために心を砕き、真つすぐに取り組んでゆくこと、と言えよう。

二〇〇五年の夏期学校は、実行委員長久保田先生提案による「志に生きる」が、テーマと決まった。会場となる近江八幡市は、W・M・ヴォーリズ宣教の地。折しも来日百年目の今年。彼の生涯の motto が、「志に生きる」であったという。

その地で私たちが共に学び合えることは、何という幸いなことであろうか。ペンを持つてコトバなるキリストに仕える私たちが、各自に与えられた使命を再確認し、「志に生きる」知恵と力を結集させるならば、神はこの日本に大いなるみ業をなしてくださるにちがいない、と信じよう。

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」(ピリピ二・1

3 新改訳

一般の志と私たちの志の大きな違いは、どこにあるのだろうか。それは第一に、天地方物の創造主からいただいた志、ビジョンだということ。これは世の人々の志が低級だということではなく、志の源に神の意志を意識しているかどうか、ということなのである。単なる私一人の野望や思い過ごしではなく、神のみ心という裏付けがあるということ。もし私の志が神から出ているならば、神が最後まで責任をもって実行する力を注いでくださる、と信じられる。聖書の人物、歴史の信仰偉人たちは、皆それを確信していた。神殿建築の志を持つていたダビデは、準備をよくして息子ソロモンに委ねることができた。(第一歴代二二・7)

第二に、志と与えられるお方は、志を持ち続ける者を、それにふさわしく整えてくださるということ。新共同訳は、「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、行わせておられるのは神であるからです。」と、ピリピ二・13を訳出。人の内側に働く神のみわざの継続があることを覚えたい。やらせてすぐダメだと捨てる神ではなく、継続教育をやめないお方が共にいてくださるのだ。

「ボーイズ・ビー・アンビシャス！」と馬上で言い残して去ったW・クラークは、すぐ帰米したのではなく、京都の新島襄に

再会し、「オー・マイ・ボーイ」と抱きかかえたとのこと。

第三に、幻の大きさ故でなく、小事に忠実なしもべに、神は栄光をあらわしてくださることを覚えたい。自分もっと大きな事をするために召されている、と主張しても、今置かれている所での小さな業ができなければ、神は次のステップに進ませてはくたさらない。エジプトの宰相になったヨセフには、十三年もの忠実な奴隷生活。下積みがあった、ということだ。



*夏期学校の主な講演

- 『JCPの志』池田勇人氏
- 『生かされた讚美歌作家』玉木功氏
- 『わたしの創作方法』今関信子氏
- 『求め得たわが居場所』川上与志夫氏
- 『志に生きる』大田正紀氏

*グループ交流協議

- A 童話 児童文学
- B あかし文書伝道
- C 創作 エッセイ
- D 詩歌

歓迎のたより

夏期学校スタッフ兄弟

待っています、湖東で 長原武夫

湖西に四年前訪れた兄弟、また初めての兄弟を、関西は一つになって歓迎します。ようやく関西ブロックの活動も軌道に乗り、ペン友が横一線に並んで、スクール案内を発信しています。開催地は近江八幡ですが、関西あげてウエルカム滋賀です。

湖西の教会はJCP関西ブロックのスタートに全面協力してくださいました。あれ以来湖西から湖東に夏風は吹き、今日の招きがあるのです。

「JCPの志」を講師陣は熱く語るでしょう。私たちは学びの中で「志に生きる」という使命感に燃えるでしょう。

JCPに入会して十七年の私、このスクールこそ「あかし文章」の学びの集大成と、とらえています。JCPの仲間たち「大いなる出会い」の場として用いてください。ぜひぜひ近江湖東においでください。

うさぎのみね 小川 恵子

この夏、牧者なる主は緑豊かな地、いこいのみぎわに私たちを伴ってくださいませ。水郷地帯にあるホテルの庭の前に、緑の

木々茂る山があります。びわ湖は見えないけれど、おいしい空気と空の広がり、いこいのみぎわ近くにいることを感じさせられます。

この自然に囲まれた中で、私たちは魂をいさかえらせ、み名を宣べつたえるため文書伝道の学びをいたします。

主が共におられるので、たとえこの世の状況が悲惨でも、文の道は困難でも、私たちは心が内に燃やされ、希望を与えられます。また、主のみ前で同労の兄弟姉妹と共に祈り、讚美し、楽しい交わりの時を持ちます。恵みといつくしみはあふれるでしょう。

私たちは、主に力を与えられて強められ、祝福に満たされたいと願います。それぞれが再び整えられて感謝しつつ、使命を与えられているこの世の現場に帰って行くと思えます。

自然の静けさの中 松本瑞枝

五月の連休の最後の日、娘の家族がやって来て「今日はお庭でバーベキューをしてよ」と言うのです。「それなら桐生のキャンプ場へ行こう」と急ぎよ決まると、大急ぎで準備して出かけました。大津では車で三〇分も行くくと、湖南アルプスに連なるキャンプ場が幾つもあるのです。谷川の音と、小鳥の声と、緑の濃淡の中に身を置くことができます。私たち家族は、谷川の中洲のような場所を見つけて食事を楽しみました。

さて、文章をもって伝道したいと心掛け

ているみなさん。近江の夏期学校に来てください。充実した文章の学びのあと、今年は八幡堀の水郷めぐりのプランもあります。ひととき自分を全き自然の中に置くことは、何かを書こうとする者にとって、とても良いことだと思えます。あなたも、わたしも、きっと神さまのささやきが聞こえてくるでしょう。文章を書くということは知識ではなくて、あふれてくるあの喜びではないでしょうか。

太田正紀先生との出会い 前山英子

私をはじめ先生にお会いしたのは、昨年七月、クリスチャン・センター神戸バイルハウスのセミナー「近代日本文芸とキリスト教」に出席した時でした。講師が太田先生だったのです。

プロテスタントの信者として三浦綾子や遠藤周作はともかく、夏目漱石、島崎藤村、有島武郎など、私が文学少女時代に読みかじった文学者の作品についても話されるというので、胸躍らせて受講しました。

その後、このセミナーの資料を久保田暁一理事にお送りしたのがきっかけで、JCP関西ブロックでも、太田先生をお招きしたいという願いが起きてきました。こんなにも早く、夏期学校に太田正紀先生（梅花女子大学教授・日本キリスト改革派教会会長）を、講師としてお迎えできることは大きな喜びであり、神様のお導きを深く感じています。

本部事務局便り

三浦喜代子

▽夏期学校歓迎特集号ができました。担当の関西ブロックから、久保田先生を初め、スタッフ兄弟の熱いお声が届きました。参加への思いがかき立てられます。最優先して出かけていきましょう。また祈りささげましょう。

参加ご希望の方はお手元の案内書に従って速やかにお申し込みください。

▽夏期学校のための祈り

*多くの参加者が与えられますように

*全期間の天候が守られますように

*講師の方々の霊性と健康が支えられ、

よい講演ができますように

*経済的が必要が満たされますように

*周辺地域にJCPの働きが理解され広ま

り関心を持つ方が起こされますように。

*久保田先生とそれぞれの担当諸兄弟がよ

い働きができますように。

▽JCP今年の主題は『志に生きる』です。

夏期学校中に文章コンクールはありませぬが、原稿をご持参くださっても結構です。また後日事務局までお送りください。原稿用紙3枚で。添付ファイル歓迎します。

◎あかし新書の発行について

春の理事会において、次のあかし新書は、昨年の『生かされている喜び』と今年の『志に生きる』を合わせて一冊にし、二〇〇六年に発行することになりました。また川上与志夫理事を頭にJCP出版部を創設しました。

◎JCPのための祈り

▽理事会の上に主の導きと祝福がありますように。また、理事一人一人が霊肉ともに支えられ、ふさわしい働きができますように。

(池田勇人理事長・玉木功副理事長・久保田 暁一・川上与志夫・長谷川乃武男・浅見鶴藏・西山純子・三浦喜代子各理事)

▽各ブロックが祝福されますように。ブロック事務局と担当者が支えられますように。

(札幌・日野栄子、本部および関東・三浦喜代子、中部・坂口良彬、関西・長原武夫)

▽会員一人一人が霊に燃えてあかしの文章活動(読み、学び、書き、広げ、本にする)に励みますように。

▽開設したホームページが多くの方々に用いられますように。(アドレスは表紙に記載)担当者島田裕子姉のために。

▽あかし文章に関心を抱く方々が起こされ、新規会員が与えられますように。

編集後記

❖さくらんぼは、天国の果実と言われ、絵画などで幼子イエスの手の中に見受けられます。このニュースレターもまた、みなさんがたの信仰の果実だとわたしは思います。そのお手伝いをいかにささげていただくことになりました。どうぞ皆さんの温もりで、さくらんぼを育ててください。今日のために、明日のために。(駒田 隆)

❖志を持って生きた人、たくさんいると思います。志に大きい小さいはあるでしょうか。ほんの一握りの志を高く掲げて生き抜いた多くの先輩達。わがJCPの志たかい仲間達、近江八幡で熱く語り合いませんか。その時だけは青年になつて。(横 尚子)

❖近江の風が、湖東の香りがもう、そこまで漂っているようです。備えて書いて下さった関西ブロックの皆さんに、祈りを合わせませぬ。このペンの願いが、あかし文章への招きが、志を持って生きる全国の兄弟にアピールできるレターとなりますように。(西山純子)

❖前号に続いて今度もプロの手を省いて、私のパソコン上での編集です。未熟ですが、楽しい作業です。(三浦喜代子)